

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成31年3月28日(木)午後1時28分～午後2時30分(9階908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 意見交換会の意見開陳
- 2 その他

午後1時28分 開 議

(高木克尚委員長) それでは、ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

まずもって昨日行われました意見交換会におきましては、委員の皆さんには大変ご協力を賜りまして、大成功で終了することができました。改めて厚く感謝を申し上げます。

本日は、実施いたしました意見交換会についてご意見をいただきたいと存じます。お手元に皆様からご提出いただいた事後感想をお配りしておりますが、そちらをもとに当日の感想や提言に盛り込むべき内容についてご発言をいただきたいと思っております。

なお、より詳細にご説明いただくために、後方のテーブルに当日のワークシートを準備いたしましたので、後方に移動して、グループごとにお座りいただいて発言をお願いしたいと思います。

それでは、大変恐縮ですが、Aグループから向こうを正面にお移りいただいて発言をお願いしたいと存じます。

3大変恐縮ですが、Aグループからひとつお願い申し上げます。

(根本雅昭委員) このA班の提言の内容は、先日発表したとおりなのですが、まず私が聞いて意外だったのが、映画制作をしたいということでA班まとめましたけれども、高校生自身が映画をつくって資金援助をしてほしいという流れになるのかと思いきや、資金は自分たちで募金活動などで集めたいと。なので、映画を行政などどこかでつくってほしいと全く逆の意見が出て、そういう意外性があったというのがまず1点です。

あとは、私の感想に書いたとおりなのですからけれども、もう少し時間があつたらなというのは、まとめると、そういう感想です。

あと次に、提言に盛り込むべき内容ですからけれども、いろいろ書いてありますけれども、結局はこのようにいろいろな、各般高校生意見を持っていますので、これらを何らかの形で行政、議会などで継続的に拾い上げて、例えば、コンテスト形式で高校生自身にさまざまな形で発表してもらって、今後も引き続き高校生の意見を拾い上げるというようなことを継続していけたらなというその1点であります。もちろんこの映画制作もせっかく高校生うちの班で発表してくれましたので、そういうところも動画作成など具体的なものも取り上げていただければなというふうに思います。

まずは以上です。

(高木克尚委員長) ありがとうございます。

では、B班、お願いいたします。

(沢井和宏委員) いろいろ意見は広く出してもらったのですけれども、なかなか絞り込みが、私のほうの進め方も全くなので、なかなか十分できなかったところもありますが、何といても高校生の前向きな姿というのはやっぱりすばらしかったなという感じがしております。

それで、私の書いたように、もう少しやはり時間があるとか、あと進め方の問題もあつたのだと思うのです。後からやはりよくよく考えたら、部分的に高校生が主体となって、高校生だけで議論する場があればよかったのかななんてちょっと考えました。やっぱり大人が入ると、なかなか本音が言えなかったりしたので、少し高校生に預ける時間もあつて、自由討議みたいな時間もあればよかったのかなって感じました。

今後どうするかというのは、私らのところで出たのは、やはりSNS等を活用して感謝の気持ちを発信していくというような、そういう取り組みの意見が多かったのですけれども、若い人たちがオリンピックを機にオリンピックを盛り上げるために何か参加できる活動について市からの財政負担とか支援などできて、何か1つ、2つでも高校生が実行できれば、やはり今回話し合った結果が子供たち、自分たちが実際に実現できたなという、そういう実感を伴うので、そこはぜひ提言の中に入れて実現していただきたいなというような感じではおります。

(高木克尚委員長) では、C班。

(鈴木正実委員) C班、本当とにかくありがとうございますという気持ちを何で伝えるのだということ、伝え方、彼ら自身頭の中で考えていたものというのが、非常におもしろいと思ったのが、まずありがとうございますの花言葉がある花を配る、あるいはそれを手渡す。それでドライフラワーをつかって各国に送る。あとは、ありがとうございますの笑顔の写真を撮って、ありがとうございますというモザイクアートをつくる。要するに花と写真によってありがとうございますという文字をモザイクアートあるいはビッグアートにしたいのだというのが彼らの一番の感謝を伝える考え方だということで、ではビッグアート、花と写真でということ、どういふふうにそれで感謝の意味を伝えていくのだという伝え方は、当然制作過程をSNSに流してみんなに

見てもらう、あるいはそのビッグアートを会場の近くに立てて来た人たちに見てもらう、あるいは駅等に立ててということで、目につくところに立てばどうだ、と。では、どうやってそれをつくろうかねといったときに、私たちだけではなく、他校に声をかけて他校の児童生徒と、あとは大人の人にも参加してもらおうというような具体的などころまで彼らの頭の中にはあったのだなということで、柔軟な発想が次々と出てきている感じが私自身は非常に受けたところでもあります。

さらに、その伝え方で日本に来てもらった人に伝えるというやり方にいろいろ話を持っていったところ、1人の男子生徒が、いや、こういうものを持って外国に行くのだ。それで、お世話になった国を何カ国か回るような、そういうことを考えてもいいのではないかという、発想がまるっきりこっちに来てもらったのに伝えるのではなく、こっちから行って積極的に伝えてきたらどうだということでの積極性というのですか、そういうものも非常に感じたなというところでもございました。

とにかく私たちが何できるのだといったら、一人でも多くの人に声をかけてモザイクアート、ビッグアートに参加をしてもらうことが、私たちが一番できることではないのかということで、自分たちの笑顔はもちろん、自分たちも写真を撮ったり、花を持ってきたりしながらビッグアートをつくりたいのだということで、感謝のことをどうやって伝えたらいいのかと。

もう一つのほうの、未来に関しては、とにかくそういった外国人が来るというオリンピックを機会として、やはり福島市が国際都市になってもらいたい。どんな国際都市だかというと、来た人が暮らしやすかったり、観光して楽しかったり、そういうようなまちづくりをぜひやっていただきたいのだということを彼らからは我々大人に対する宿題みたいな感じでいただいたなということでもあります。国際観光都市というよりも国際都市福島ということで外国人も住めるというような、そういうような仕組みづくりで高校生たちが大きくなってくると、大きくなって大人になったときには必ず優しさであるとか、あるいはそういう人たちと一緒に暮らすのだという夢を私たちが実現していけたらいいねというところで彼らの意見はまとまったかなというふうに思いました。

以上です。

(高木克尚委員長) では、D班。

(二階堂武文委員) D班のほうは、アンケートを書きましたので、まずD班の意見交換の中では二本松の提灯祭りや新しいわらじ踊りで歓迎するとか、校庭で伸び伸び運動する姿、日常に戻ったということで、これが復興のひとつ象徴的な姿ではないかといったことでこういったものの発信とか、ボランティアでお返しをする、JRCのメンバーが3人いて1人欠席だったのですけれども、ボランティアの話、あとは竹灯籠等で感謝のメッセージを発信するなど、まず最初にみんなができることを確認した。

次に、これを表現する場として、ちょうど2年に1度公開している桃李祭、ことしの秋開催だそうですが、に結びつき、行動に移すということのちょっと話が広がっていきました。この様子をSNSや市、商工会議所等の協力を仰ぎながら地域のホームページ等ともリンクをさせ、広げ、来年のオリ

パラに向けてその動きを地域レベルに拡大させていくというような2段階のプランに持っていかればというようなことが出ました。当初私も進行役として着地点が見えない不安もありましたが、参加意欲をみなぎらせていた生徒の皆さんにうまく途中から気持ちがかみ合いました、これからの学校行事と重ね合わせてやる気になれば、自分たちの力でも実現可能なことしの秋の桃李祭にまとめ上げていくプロセスに立ち会うことができたというのがちょっとほっともしましたし、楽しくもありましたという感想になりました。

2として、盛り込むべき具体的な内容ではないのですが、ちょっと感じたことということで、やはり結構私の班も国見から通っている生徒さんもいれば、去年中国からの帰国子女の女性の方もいらっしやれば、広域的に通学する高校生の持っている人的ネットワークと実行力は、地域にとっては本当に大きなものがあるということで、その活用いかんではまちの活性化の大きなエネルギーの供給源ともなり得るというのを改めて思いました。

今回のオリンピック・パラリンピックというステージにおいて、地域の一体感の醸成という中でやはり高校生の果たすべき役割の大きさを実感させられました。高校生活の中で地域との接点が見出される学園祭であったり、ボランティア活動などのかかわりにおいて、彼らにできること、またお願いすべきことについて、もっと意見交換を試みる必要性を感じました。それで、地域、行政と高校生の協力関係づくりといったものについて突っ込んでいけば、そういった試みてやっぱり地域に希望を与えるものにもなっていくのかなと、このオリパラを契機として。そういうのをちょっと感想として感じました。

(高木克尚委員長) では、E班、お願いします。

(小松良行委員) まずもって委員長、副委員長をはじめ学校の校長、あと進めていくにあたって足を運んでいただいて、またその際にこの復興五輪、オリンピックの福島での開催ということの意味をしっかりとお伝えいただいたり、冒頭での委員長のご発言に深く私どもも聞いて感じたところだったのですけれども、そうしたことから子供たちがこの機会に参加できたということが、それまではきっとオリンピックの開催というのは耳にはしたかもしれないけれども、なかなか自分たちのものとしては考えていなかった。今回この機会を通じて、この中の自由記載の中にも結構福島市議が一緒になって自分たちと、成蹊高校と盛り上げたいと感じたというふうなことで、動機づけとしても最高の舞台がこの機会にできたというふうな感じは思います。しかしながらというところで、相手がほぼほぼ1年生の高校生ですから、自分たちの意見がどういったものの中身なのかということ踏み込んで尋ねると、思いつきでやって、なかなか深いところまで引き出すことが難しかった点は、我々側のほうとしても学校の先生ではないので、また短い時間の中で多くの学生の意見を引き出していくのに大変苦慮する場面もあったのですが、努めて村山さんと明るく元気に子供たちと、まず子供たちの声を聞こうというスタンスで取り組んで、何とか格好にはなったのかなという気がします。

先ほど沢井さんがおっしゃられたとおり、こうして子供たちからのご意見に対して私ども真摯に、

これ市への提言のほうに移ってまいりますけれども、動画の作成もそうですけれども、SNSでの発信やおもてなし、先ほど言われていましたが、おもてなしの心をどのように伝えていくかということで、E班のほうでは参加国の料理を福島で、あるいは逆に参加国の関係者の皆さんにおもてなし料理を出して一同をもてなしたいのだといった優しいお言葉もありましたので、何か1つでも2つでもそういうものが実際の開催時に取り組みを行って自分たちの案が取り上げられた、その辺やっぱり頑張っただけでオリンピックを盛り上げていくのだという機運をこのままにさらに盛り上がるような取り組みにつなげていただければありがたいなというふうに思います。

(村山国子委員) 私も書いてはあるのですけれども、やっぱり今回の意見交換会を通して子供たちがオリパラに関心を持ったというぐあい大きいのかなというのと、この意見交換会を通して、事前も通してなのですけれども、ボランティアをやってみたい、そしてオリンピックが終わった後もそういうのに参加してみたいって、そういう気持ちが芽生えたということは、やっぱりこれは意義があったのではないかなというふうに思いました。

あと、もう一つは、沢井さんのほうからもあったのですけれども、やっぱり市会議員と一緒に話したということで、市政にこれからも引き続き関心を持ってもらうためには、さまざまな場面で高校生も含めた若者の声を聞いていく。そして、沢井さんからもあったように、何か支援ができるような形がとれたら、やっぱりますます市政に関心が出てくるのかなというふうに思いました。

以上です。

(高木克尚委員長) ありがとうございます。

各班から報告をいただいた内容、それぞれお互いに質問はあろうかと思いますが、まず正副委員長としましては、今後当特別委員会がやっていかなければならないことは、委員長報告あるいは各方面の提言をどう取りまとめていくかということになります。その報告なり、提言に何を盛り込むのかという作業に入るわけですけれども、当初から想定しているもの、来年、2020年までにできること、2020年以降にできること、これを整理する委員長報告になっているのかなと。それから、もう一点とすれば、今回の意見交換会でさまざまなアイデアが出ましたが、それを実現可能な方向性を我々自身が位置づけしていかなければならないのかなと。この2つを余り時間がない中で皆さんにまとめていただかなければならないものですから、ちょっとこの後は、いろんな意見今出ました。ただ、共通するのは何かしらツールを使って発信していくということと、それから今申しましたように、何をみんなでやるのかと。成蹊高校の子供たちだけでやるのか、市内の高校生も含めて何かアクションを起こすのか、その辺を整理していかなければならないと思うので、ちょっと短い時間ですけれども、皆さんで意見交換をしていただきたいと思います。自由討議をしていただいて、何か方向性のきっかけをつくっていただきたいと思いますと思うのですが。

【この間自由討議】

(高木克尚委員長) これは本当になるべく現実に近い絞り込みにしたかったのですが、そういう意味

できょうビッグアートというテーマは、たくさんの方に理解と参加をいただけるテーマになったなどという思いがあるのですけれども、そこで取りまとめに入っているいいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、大変恐縮ですが、協議いただいた内容を踏まえて正副委員長手元で少し検討をさせていただきたいと思います。

お席にお戻りください。

今後の日程について、委員長報告のまとめもしていかなければならないものですから、4月、5月に4回ほど、大変恐縮ですが、開催したいと思います。

それで、日程案を申し上げたいと思いますので、ちょっと手帳を開いていただければと思います。まず、1回目、4月11日木曜日なのですが、午後議運が入ってしまったものですから、午前10時でいかがでしょうか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、4月11日木曜日10時。

第2回目が4月26日金曜日。午前、午後だめな方いらっしゃいますか。

【何事か呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、26日金曜日午後1時半でお願いします。4月26日金曜日13時30分。

3回目、5月14日火曜日。1時半を考えています。13時30分。5月14日火曜日13時30分。4月、5月は、他の委員会、議会報告会等々めじろ押しなものですから。

【何事か呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) そこ3回分だけ委員会とりあえず押さえていただきたいと存じます。では、以上の日程でよろしくお願いを申し上げたいと思います。

正副委員長は以上ですけれども、皆さんのほうから何かありましたら。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、以上で本日の東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後2時30分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚